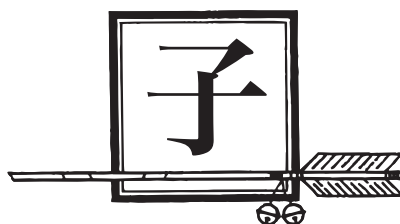


SEISHIN APPLICATION *CLICK*

—— 適応と前進 ——

Index	P1	新年賀詞
	P2~P3	年頭所感
	P4~P9	【特集】「印刷ビジネスの動向と展望 2019-2020」 公益社団法人 日本印刷技術協会 研究調査部 主幹研究員 藤井健人
	P10~P12	【経済】関連情報
	P13~P14	【コラム】「印刷会社が導入するSDGsとは」 ファイルティーチャー 代表 世古真一

謹 賀 新 年
明けてましておめでとうございます



昨年 2019 年は景況の回復を追いかけている間に”とぼり”が下りてしまいました。
今年 2020 年は東京オリンピック競技会開催の記念すべき年。私達業界もこの記念すべき年に肖って大いに飛躍したいものです。一方、国連サミットで **SDGs（持続可能な開発目標）** が採択された以降、政府・大学・企業が様々な取り組みを展開しています。当 CLICK もいささか乍らお役に立たせて頂けるように盡力致します。（編集室）

誠伸商事株式会社

TOKYO	03-5751-3011
SIZUOKA	054-340-1191
TOUHOKU	022-299-6661
KITAKANTOU	028-684-1981
NIIGATA	025-286-9040

謹 賀 新 年

2020年 元旦

謹んで新春のお慶びを申し上げます

旧年中は一方ならぬご高配を賜り

厚く御礼を申し上げます

2020 年一貴社のさらなるご発展を

お祈り申し上げますとともに

本年も変わらぬお引き立てのほど

宜しくお願い申し上げます。

SEISHIN 誠伸商事株式会社

代表取締役社長 福田 和也

社員一同

子 歳 寿 詞

子は十二支第一番目の歳、方位は正北、季節は真冬、時刻は零時、総てに於いて新しい生命が誕生する基であります。

子にはねずみが当てられます。ねずみは繁殖が盛んで農作物等を食べるなど、人間生活に被害を及ぼすため忌み嫌われますが、災いを予知して、火災、地震、洪水などから多くの人々を護る能力を備えています。

おおくにぬしのみこと 十せりひめのみこと
神代の昔、大国主命が須勢理比賣命とのご結婚に際し、その父神に当たる須佐之男命から試練を与えられ、根の国で野火に囲まれた際、ねずみが現われ、洞穴に導き入れてこれを助けたという神話があります。それ以来ねずみは大黒様のお使いともいわれ、大黒様の持ち物である小槌とねずみの組み合わせは「大黒ねずみ」と称され、古より良い前兆と信じられています。また、白ねずみは、物の本に「黄金の精化して白ねずみとなる」とあり福の神と讃えられて来しました。

令和の新时代が幕を開け、干支第一番目である子歳の本年、ねずみの功德により災いが無く、実り豊かな年になりますようご祈念申し上げ、皆様のご多幸をお祈りいたします。

(原画 日展評議員 米陀 寛画伯 揮毫)

令和二年 元旦

日 光 東 照 宮

2020 新春メッセージ

時代の変化を先取り



日本印刷産業連合会

会長 金子 眞吾

令和はじめての新年を迎え、こあいさつを申し上げます。

今、社会や産業は新しいテクノロジーによって急速に変わりつつあります。とくにデータ活用とデジタル技術の進化は著しく、デジタルトランスフォーメーションによって生活やビジネスに革新がもたらされています。印刷産業においてもこの変化を巧みに捉えることで、既存のビジネスプロセスにとらわれない革新的なビジネスモデルも生まれてきております。企業の在り方自体を見直し進化することで印刷産業はさらに社会に貢献できると考えます。

このような社会の転換期に対応するため、日本印刷産業連合会では経営方針であるブランドデザインと国連のSDGsの考え方を基本とし、テーマを定め活動しております。今年も時代の変化を先取りし、さらに事業を推し進めてまいりたいと考えております。

がビジネスパートナーとして地域活性化に関わり地域社会に貢献できるよう、さらに事業を進めてまいります。新たなビジネスモデルを業界で共有し水平展開することにより、日本各地の印刷会社による新たな自社製品やソリューションの開発促進に寄与いたします。今後は印刷会社が地域の中小企業のデジタルトランスフォーメーションの活用をサポートしていくビジネスが重要になってくると考えています。

さらには、女性経営者のネットワーク作りを通じた女性活躍推進、スマートファクトリーをはじめとする新たな製造技術の取り込み、昨今問題となっている個人情報取扱いなどの重要なテーマも掲げ、SDGs推進プロジェクトと常設委員会が連携して総合的な事業運営を進めてまいります。

7月には、いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。この大会に関連するビジネスはもちろんのこと、多くの外国人観光客を迎えインバウンド需要も日本各地で期待できるはずです。自治体、企業などあらゆるステークホルダーと連携し新たなビジネスを私たちの手で生み出す年にしたいものです。

日本印刷産業連合会は、本年も印刷産業が社会に必要とされる産業であり続けるために、皆さまとともに事業を進めてまいります。皆さまの「発展」と「健康」を祈念して、新年のあいさつとさせていただきます。



昨年10月に開催いたしました「全印工連フォーラム」には、全国から300人を超える方々にお集まりいただき、全印工連事業をより一層ご理解いただくとともに、あわせて全印工連の団結力と協調を再確認することができました。これもひとえに全国の印刷工業組合の役員、組合員、関連業界の皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

組合員企業の1社1社がHappiness Companyを目指すことを目的に、待ったなしの「働き方改革」を実行するため、そのプロセスを発信し、さらには、対内外の広報の強化や事業

の組合員企業の1社1社がHappiness Companyを目指すことを目的に、待ったなしの「働き方改革」を実行するため、そのプロセスを発信し、さらには、対内外の広報の強化や事業

夢持てる魅力的産業へ

全日本印刷工業組合連合会

会長 白田 真人

東京オリンピック・パラリンピックイヤーとなる本年も引き続き、当連合会のブランドスローガン実現に向け、中小印刷産業の向かうべき方向性を共有し、人々の幸せを作り続ける印刷産業を実現するための諸事業に取り組む、その中心事業となる「幸せな働き方改革」においては、総仕上げとなるSTEP4・5の完成と実行を着実に進めていきます。

このように、全印工連では、ブランドスローガン「Happy Industry」人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」を掲げ、全国

業継支援、環境業務対策、組合員および各種共済制度の加入促進、各種教育事業の実施、ダイバシティ・マネジメントによる多様な人材の活用、CSR普及・啓発活動、資機材問題への対

日本全国のHappiness Companyの集まりがHappy Industryへと繋がり、将来を担う若者たちが憧れ、夢を持つことのできる魅力的な産業となるよう、日本全国の組合員企業とともに、全印工連の大きな組織力を存分に活かした事業活動に全力で取り組み、全国の組合員企業の皆様のお役に立てるよう一層精進してまいります。



新しい年、令和2年が始まりました。

昨年は、コンプライアンスやガバナンスの重要性について再認識せられる出来事がいろいろありました。

現在の日本の社会や組織は未だに男性中心の風土の中で、理性的、論理的なもの、いわゆるロジックを重視してきました。その結果、売上や成果を追及しすぎてしまうという風潮が生まれ、これが架空売上や粉飾決算をはじめとする不祥事の温床の原因となったのではないかと感じています。

しかし、急速なグローバル化やデジタル化が進み、不安定で複雑な社会のもとで、正しい判断を下し、最善の行動をとる、変化を乗り越えて成功するためには、「品性」や「独自性」「美意識」といった感性的な価値観を重視することが重

「品性」や「美意識」基礎に

日本フォーム印刷工業連合会

会長 櫻井 醜

要となってきました。それゆえに、グローバル企業を中心に、理性的な価値観のみではなく感性的な価値観に注目が集まっています。私たちも、健全で持続可能な企業経営の実現を目指し、それら

「寺子屋プロジェクト」を立ち上げ、全国の会員企業とともに、活動してまいりました。その中で、私は、理性的、論理的な訓練のみではなく「感性」や「美意識」とこれらの土台となり、自己に誇りを持ち、自らが自らを律する力である「品性」の重要性を折に触れ話してきました。また、各企業が進められている、女性活躍推進をはじめとする「働き方改革」においても、「品性」はとても重要な経営のフ

「品性」や「美意識」を経営の基礎とすることが必要な時です。昨年より、日本フォーム印刷工業連合会では、フォーム産業の未来を切り開くために、次世代の人材を育成する場



昨年は、天皇陛下の生前退位による御慶等承継の儀から即位礼正殿の儀、祝賀御列の儀、大嘗宮の儀といった皇室行事が滞りなく行われ、改めて日本らしさを取り戻した一年だったように感じます。

10月1日からは消費税10%時代を迎えました。軽減税率制度やポイント還元制度等の導入もあり、経済への影響を最小限にしたいという政府の意思もありました。直

近の景気動向指数では、消費税増税後のマイナス幅は3・11東日本大震災以来の大きくなったという事です(速報値)。

また「働き方改革」は昨年4月に一部施行されましたが、中小企業が本格的な対応の検討を開始しなければなりません。働き方改革は、少子化による人材不足、育児・介護などとの両立を図る働き

1社1社努力と英知で

日本グラフィックサービス工業会

会長 中村 耀

方などの対策として打ち出されたもので、ワークライフバランスを考えた対策が急がれます。ジャグラーとしては、私が会長に就任して2期4年目という年でした。これまでの財政問題を解決

りやすい名称に変更し、昨年10月に開催した地協会長・支部長が集まる全国協議会では「生産性向上」をテーマとして開催し、運営に協力をしていただきました。また、会員増強では、支部長・支部役員・支部会員の皆さまのご協力を得て推進してまいりたいと思いますが、会員増強はただ単に会員数を増やすということのみではなく、会員数が多ければ多いほど「情報」を増やすことにつながりますので、その点もお祈りいたいただきますようお願いいたします。

しながら、事業を推進していくという姿勢ももちろん変えずに、「強いジャグラー」を構築していき「やさしい」を標榜してきています。働き方改革では、ビジネス推進委員会などとの両立を図る働き



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、私もグラフィックコミュニケーションズ(GC)業界に格別なご支援、ご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

日本経済は消費税増税を乗り越え緩やかな回復が持続していることがうかがえます。展望すると、景気は一時的な落ち込みをみせるものの、その後は、外需の持ち直しと内需の底堅さに支えられ、緩やかな景気回復が続く見通しと考えられます。

さて、私たち業界は、業界組織の将来への持続的発展に資するためにはどうあるべきか、いま直面する緊急かつ恒久的な難題の解決を模索しております。そのための打開に向けたさまざまな事業活動、展開を構築していくかなければならない厳しい状況下にあります。

情報の発信・提供・共有

日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会

会長 田村 壽孝

私たち全国の組合員企業の多くは、「紙」や「電子」などの多種、多様な媒体を包括したメディア加工を展開しています。この多士済々で十色(十社十色)の個性豊かな組合員企業が集

ります。いまある業界の力量のなかで、この難易な時代に、変化に対応する「行動プラン・運営方針」を考えなければなりません。先を見据えた事業活動や運営は道半ばではありませんが、最良の策を模索、講じながら一歩前に歩み続けることを心がけております。

日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会(GCU)は全国組織として、多難な懸案が山積してはおりますが、全国の所属する組合員の皆さまに、的確な変化に適応した「情報発信」「情報提供」、そして「情報の共有化」に努めてまいりたいと思います。

最後に、関係諸官公庁をはじめ関連団体、関連業界の皆様との絶大なご指導、ご支援、ご協力を仰ぎつつこの難局を乗り越えていきたいと思っております。各位の温かいご指導をお願いするとともに、関係各位ならびに組合員のご多幸、ご健勝とご発展を祈念し、新年のごあいさついたします。

印刷ビジネスの動向と展望 2019-2020

公益社団法人 日本印刷技術協会
研究調査部 主幹研究員 藤井建人



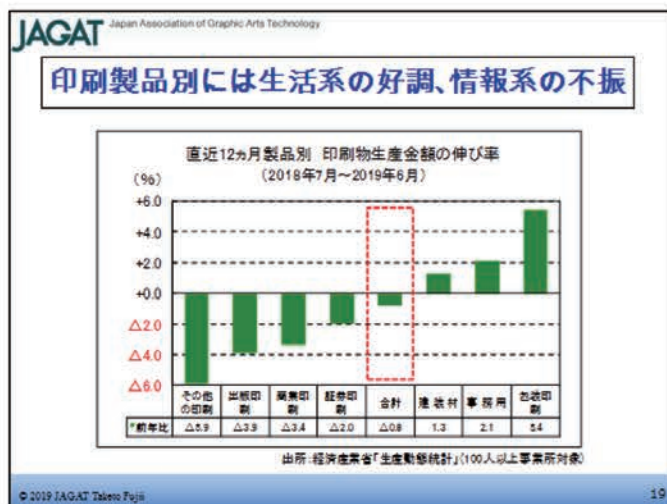
印刷市場規模の2017年は前年比0.7%減の5.2兆円。下げ止まりに近い微減だった。この5年は年率1.5%減にとどまって、印刷物が加速度的にデジタルメディアに置き換わる流れは一段落している。一方、事業所数は4.3%減(22,210)のため、1事業所当りの年商は3.7%増(2.4億円)、従業員数は3.3%増(12.7人)と、規模の拡大化傾向が鮮明になった。反面、1人当り売上高は0.5%増(1855万円)と生産性改善が課題になっている。



2018年度の印刷会社経営を振り返る。売上高は4年連続の減少。米中貿易戦争の深刻化、西日本豪雨や北海道胆振東部地震も影響した。しかし売上高の減少幅は3年ぶりに小さくなり、1人当りの売上高と加工高は3年ぶりに改善した。しかし1人当り人件費も3年ぶりに増加するなど諸物価の上昇傾向をこなしきれず、営業利益率は5年連続の1%台に低迷。様々な改善の兆しは見たが、生産性の改善を収益性に結びつけるには至らなかった。



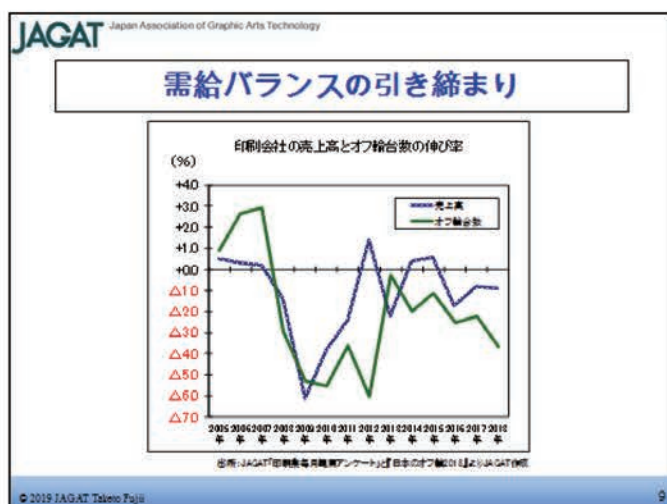
2019年は、用紙不足によって売上高は3月までマイナス圏だった。4月は統一地方選需要とGW10連休前の駆け込み需要によって8ヵ月ぶりのプラスになったが、5・6月はマイナス圏に逆戻り。参院選などを支援材料に7月からプラスに転じ、特に9月は増税前の駆け込み需要等によって大幅増。価格改善も寄与した。年間を通じれば、天災や日韓関係悪化などのマイナス要因がありながらも、改元、増税などが生み出したプラス要因の方が大きかった。



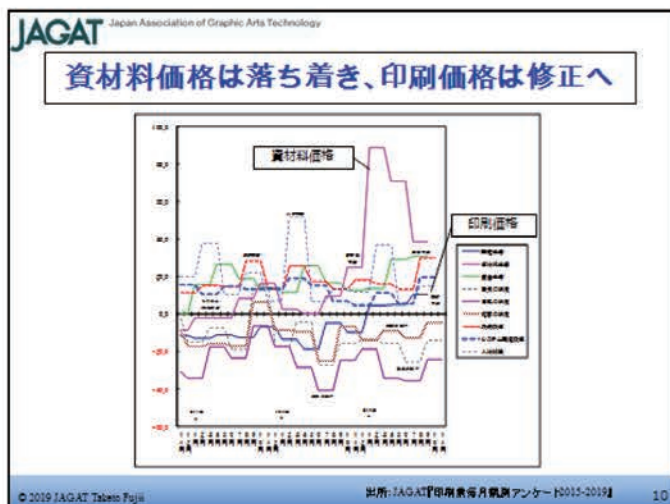
製品別に、増加は包装、証券、事務用。横ばいは建装材。減少は商業、出版。包装は個包装の流れや最後の顧客接点としてのマーケティング機能を重視する流れから好調。証券は増税対策特需が押し上げた。事務用はデータ活用によるDMや通知需要が貢献。商業は折込チラシ減少の影響が大きい。出版は特に雑誌不振が継続。包装など生活系が好調、商業・出版など情報系が不振、DMなどデータ系が成長といった構図である。



印刷通販の推定市場規模は1200億円台に迫った(2018年)。成長はやや鈍化しているが、平均的な業績は既存の印刷会社よりはあるかに高い。ただし企業ごとと明暗が別れ始め、成長の止まった企業や赤字転落した企業も見受けられ、印刷通販すべてが一律に成長する局面は終えた。方向は、設備投資によってさらなる成長を目指すグループ、設備投資を抑制して利益確保を目指すグループ、ニッチ市場の獲得に動くグループに別れ始めた。



印刷事業所の数は、この10年でちょうど1万減った。印刷機は特に生産能力の高いオフ輪が減っている。事業所と印刷機が相乗的に減るため、供給力の削減が需要の減少に先行する状態になり、需給バランスが改善した。さらに2019年春には用紙不足も重なったため、一部でこれまでにない印刷価格の上昇が観測された。しかし印刷価格の値上がりは現時点で一過性ではなく、価格戦略を修正して損益に反映させる方策が有効性を増している。



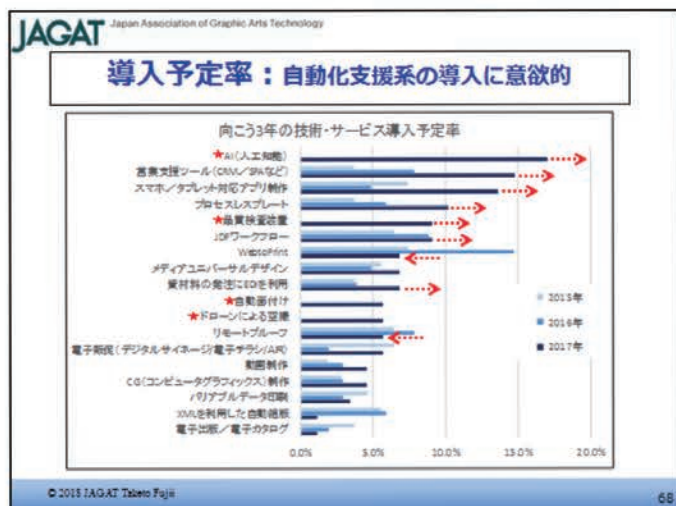
JAGAT の月次調査によると、用紙価格は2018 年秋から大幅上昇した。現在もプラス圏ながら2 四半期連続で低下して落ち着きの気配を見せている。印刷価格は2019 年春から調査史上初のプラスに転じた。印刷経営者の捉える景況感は、景気全般よりも業界は悪いが、自助努力によって経営はある程度保たれているが、用紙代値上がり分までは吸収できていないといったものが平均的だ。



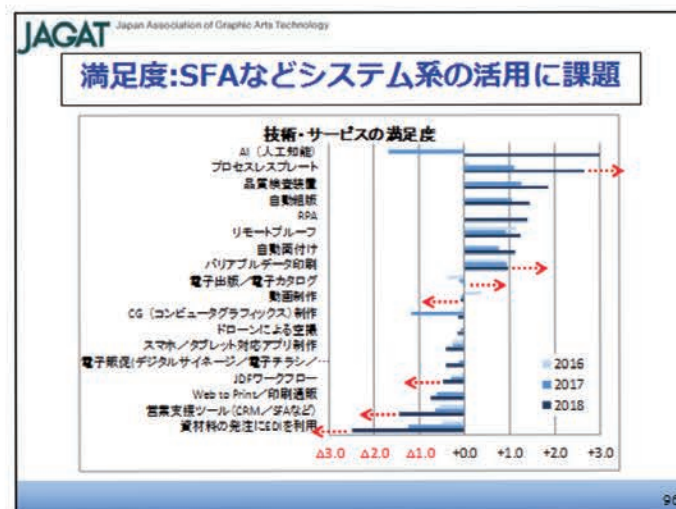
印刷会社の非正規従業員比率は3年連続で史上最高水準。パート・アルバイト・派遣社員など、いわゆる非正規社員が増えていることを示す。JAGATが初めて調査したところ（2019年）、印刷会社の12.8%に外国人がいることがわかった。さらに、外国人が1人でもいる会社は、全従業員の4.6%が外国人であることも判明した。人手不足や人件費高騰などを背景に、外国人からAIまであらゆるリソースを総動員する必要性が生じている。



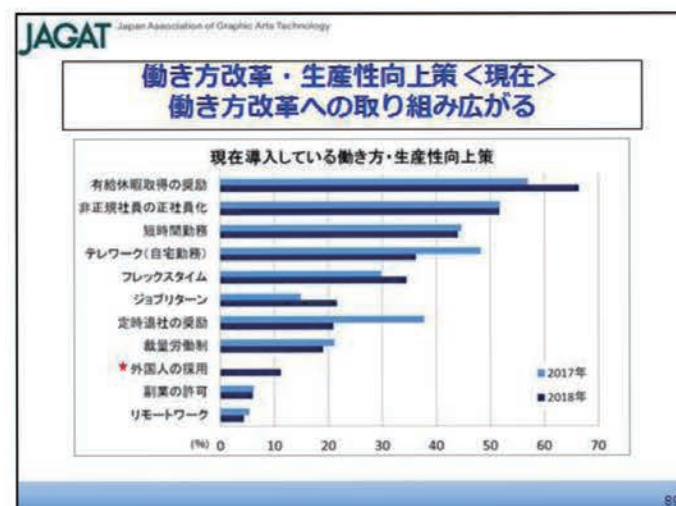
JAGAT の調査では、「権限委譲型の組織」と「部門間連携の良い組織」を志向する印刷会社が増える傾向にある。逆に「指揮命令系統の明確な組織」は減る傾向にある。成長の原動力となる新規事業やその元となるアイデアが創発されやすい組織に組み替える必要が生じている。社員を秩序正しく動かすことも大事だが、創造性を育みやすい組織にすることがより望ましい状況となっている。



印刷会社の向こう3年の技術・サービス導入意向の人気1位は2年連続「人工知能(AI)」。2位「RPA」、3位「営業支援ツール(CRM/SFA)」の順。導入に意欲的なのは自動化支援系である。4位「スマホ/タブレット対応アプリ制作」、5位「プロセスレスプレート」、6位「資材発注 EDI」、7位「自動面付け」、8位「JDFワークフロー」と生産支援系が目立つ。投資がハードからソフトへ向かっている。



印刷会社が導入している技術・サービスの満足度は、AI・プロセスレスプレート・品質検査装置・自動組版・RPA・自動面付といったハード系・印刷生産支援系が高い。逆に満足度が低いのは、資材発注 EDI、営業支援ツール(CRM/SFA)、Web to Print、JDFワークフローといったソフト系・営業系である。ものづくり系は使いこなすが、営業系の活用が課題である様子が浮かび上がってくる。



「JAGAT 印刷産業経営動向調査 2019」によると、印刷会社の働き方改革施策は、導入率の多い順に「有給取得の奨励」「非正規社員の正社員化」「短時間勤務」「テレワーク」「フレックスタイム」「ジョブリターン」「定時退社の奨励」「裁量労働制」。将来的には「リモートワーク」が検討されている。「施策と業績の相関を見ると、現時点では時間短縮型より休日付与型が有利かもしれない。

JAGAT Japan Association of Graphic Arts Technology

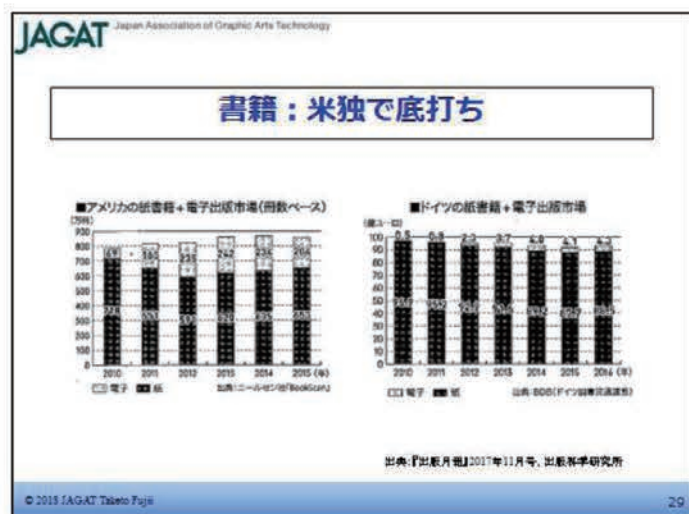
本の生まれる・売れる場所が変わる

文学フリマ 札幌市図書館 情報館



© 2019 JAGAT Taikei Fujie 17

既存の出版市場が低迷するなか、新種の出版市場が誕生している。ここで印刷・売買されるのは、マンガなど現代的な意味の同人誌ではなく、文芸書や技術書、ビジネス書といった文字物だ。従来の正規出版とオタク的な同人出版の中間的な、いわば「ライト出版」と呼ぶべき市場である。デジタル印刷機の普及が誰にも出版を身近にした結果であり、さらなる商機がありそうだ。



LINE とメルカリの赤字決算、ヤフーが大幅減益、iPhone が減産など、2019 年はデジタル企業の失速に関する報道がこれまでになく目立った。デジタルも一定の普及期を終えたのである。米国では書籍の売上高が下げ止まった。デジタルが失速すると印刷が増えるわけではないが、デジタルだから伸びるわけでもない時代になった。局面が変わったことを理解する必要がある。

JAGAT Japan Association of Graphic Arts Technology

工場見学で価値を創る「工場見学マーケティング」 「関の工場参観日」(協同印刷：岐阜県関市)

関の工場参観日

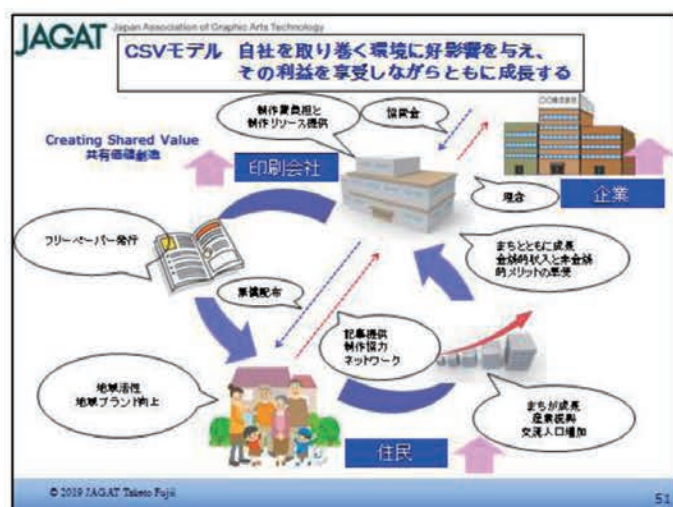


© 2019 JAGAT Taikei Fujie 37

新たな社内外ネットワークを構築して、従来にない営業接点や新規事業を創造しようとする動きが増えている。現代はもはや、社内の経営資源だけで新規事業を創出することは難しい。その時に、工場見学を活用、あるいは地域一体型工場見学イベントを主導する例が増えている。望月印刷が関わる台東区南部の「モノマチ」、岐阜県関市の協同印刷が関わる「工場参観日」が知られる。



2020年の経済成長率は減速との見方がコンセンサス。景気刺激材料が五輪に集中してしまう。五輪会場の竣工、高輪ゲートウェイ駅・虎ノ門ヒルズ駅の開業、1111室のAPAホテル両国開業、東京国際クルーズターミナルの開港など、2020年を目標とした案件の完成が目立つ。大規模な投資活動の一段落が減速要因になる。6月には増税対策のキャッシュレス決済ポイント還元も終了する。



マイケル・ポーター CSV (Creating Shared Value)

人口増による需要増を望めない時代を迎え、企業は自ら成長性を創り出さねばならない。その一つに CSV の考え方がある。企業が自らを取り巻く環境に良い影響を与え、その恩恵を受けることでともに成長するマーケティングのあり方だ。国内では IT 企業の不振が伝えられ、世界経済を牽引してきた中国経済も失速した。もはや成長市場は世界のどこにもない。経済のゼロ成長時代は成長市場を探すのではなく、自ら創る必要がある。



1964年の東京五輪では、B1 グラビア多色印刷が実現するなど大量印刷時代が幕を開けた。2020年は適時・適品・適量を価値としたオンデマンド時代とともに迎えることになる。一方で、世界的には脱プラの必要性から紙を再評価する潮流は追い風になるかもしれない。新たな十年紀が幕を開ける2020年はどのような年になるだろうか。価値観が変わることを前提に考えてみたい。

印刷会社が導入する SDGs とは

ファイルティーチャー 代表 世古真一

聞き手：CLICK 編集室 スタッフ 杉本なつみ

CLICK2019年11月号では、ハリウコミュニケーションズ株式会社の針生英一代表取締役（宮城県印刷工業組合 理事長）に印刷会社がSDGsに取り組む理由～SDGsを通じた質的な成長～と題して、寄稿していただきました。目先の印刷物の仕事を追求めるだけでなく、高齢者の情報化支援をきっかけとして、SDGsの目標の中にあるものに当てはまるかどうかという基準で、地域の中のビジネスの種を見つけて、地域にとって必要とされる仕組みを企画すれば、本業である印刷にも着実につながっていくという導入事例をご紹介します。CLICK編集室では今年、2020年は「社会全般とりわけ印刷産業でも」SDGsの導入を考える企業は増加してくるの見込んでいます。そこで、印刷産業に関わり、独自の視点で地域の印刷会社の事業企画を提案しているファイルティーチャーの世古真一氏にSDGsの方向性について伺いました。

杉本：SDGs推進フォーラムを立ち上げられたとお聞きしましたが、どのような活動がされるのですか？

世古：私は長年印刷会社を始め様々な企業で、企業理念と個人の考え方が一致するところに

モチベーションが高まる研修プログラムを企画開発してきました。およそ、社員研修のプログラムというと、経営者が旗振りをしているから仕方なくやろうというふうになりがちです。そのような目標ではなくて、社員自らが自分のこととして考えて目標を見つけて実践していくプログラムが必要だと考えていました。そんな状況の時に国連で採択されたSDGsこそ、企業だけでなくすべての一人ひとりが、人類の持続可能な開発ということを意識するべきです。そして、それを意識しやすくなるような研修プログラムを提案していきます、本CLICKの一助となれば幸いと考えております。

杉本：SDGsを企業が導入する時、何に一番注意して取り組まなければならないと思われますか？

世古：それは、疎外感をなくすことです。SDGsを推進する上での関係者の中の話合いのことです。2015年9月の国連サミットで採択された、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標のことで、17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されているものをSDGsと略して話を進めていますが、そのことを知らない人が、

エスディージーズという響きだけでわかったような、わからないような、顔をしてコミュニケーションをしていたとしたら、わからない人にとっては自分だけ仲間外れにされている「疎外感」を感じさせてしまいます。世界のすべての人が「持続可能な開発目標」を旗印にして活動しようとしている矢先から、個人レベルで疎外感を感じてしまえばその目標を達成する見込みは低くなってしまうと思うのです。

杉本：疎外感を感じさせない SDGs の導入とはどうあるべきなのでしょう？

世古：面倒なことではありますが、抽象的な表現を具体的に勉強し合うことです。つまり、SDGs は、(Sustainable Development Goals) のことで、(エス・ディー・ジーズ) と呼んでいますが、日本語の意味は「持続可能な開発目標」ということで、国連が 2030 年までに達成するために掲げた目標が 17 個あって、その 17 個の内容を知ることから始まり、その一つ一つの目標を実現する行動内容は 169 個用意してありますよ・・・で、自分た

ちの企業としては、私個人としては、この中のどの目標を仕事や生活の中で取り組むことができるだろうか？を考えて、お互いに意識し合うことなんです。そこが第一歩だと思います。抽象度の高い言葉を理解している人同士では、コミュニケーションの速度が上がります。しかし、知らない人が中にいると、目標を共有できなくなることもあります。抽象と具体を行ったり来たりしながら、根気よく進めていくことが導入の際に留意すべきことだと思います。

杉本：2020 年の CLICK では、「持続可能な開発目標」を意識して経営に取り入れ、社員が一丸となって行動できるようになるための役立つアイデアを得られる記事をテーマに考えていきます。そして、紙面だけではなく、出来得れば、全国各地で勉強会等を開催し、1 年を通してみなさんと意見を交換しあえる場も作って行きたいと考えています。CLICK 編集室としてこれから先の未来を切り開いていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



Customer Delight

—満足から感動へ—

印刷業向け統合経営支援ソフト
FileMakerテンプレート

印刷管太郎XI

パッケージ版 / ASP版

BEST

使うに簡単!使って感嘆!



LED-UV・オゾンレスUV用
LUV-10

ハイブリットUV用
KUV-20

プルーフ用

インクジェットプリンタメディア

PoleStar

IJP-RC-180 **IJP-RCN2-180**

IJP-GC-150 **IJP-GC-90**

IJP-GC-140 **IJP-GC-85**

IJP-MC-150

IJP-MC-140 **IJP-MC-85**

IJP-IP-170 **IJP-IP-130**

進化したデジタル検版ソフト

FLAP WORKS 2 登場!!

デジタル検版ソフトウェア

FLAP WORKS 2

フラップワークス

for Windows / macOS

Office データ変換システム

PDF Change Server

Officeデータ入稿に革命を!

AccurioPress
C3070



Full Color Production Printing System

KONICA MINOLTA

SEISHIN 誠伸商事株式会社 www.seishin.co.jp

■本社〒145-0062東京都大田区北千束2-9-10TEL.03-5751-3011

■静岡支店〒422-8034静岡県静岡市駿河区高松2-17-11TEL.054-340-1191 ■北関東営業所〒321-0104栃木県宇都宮市台新田1-6-9TEL.028-684-1981

■東北営業所〒983-0841宮城県仙台市宮城野区原町3-8-9TEL.022-299-6661 ■新潟営業所〒950-0853新潟県新潟市東区東明7-2-24TEL.025-286-9040